



連携室便り

発行日：30年1月

取手北相馬保健医療センター

医師会病院

—医療連携室便り—

—第36号—

新年のごあいさつ

取手北相馬保健医療センター医師会病院
病院長 鈴木 武樹



新年明けましておめでとうございます。

旧年中の先生方よりの当院に対するご配慮、ご協力改めましてお礼申し上げます。おかげさまで29年度の病院収支決算につきましては久しぶりに良い報告ができる目処がついています。

病院の昨年の状況と今年の抱負を述べさせていただきます。

昨年2月より南3病棟に地域包括ケア病棟50床を開棟しました。60日以内の在宅復帰を目指し急性期からの回復患者、先生方からの比較的軽症でリハビリを必要とする患者等の対応をさせていただきました。開棟当初懸念された在宅復帰率は70%以上をクリアできていて順調に推移しています。これも先生方の協力が得られる医師会病院の強みであり、またありがたい事であると感謝しています。今年も在宅ケア中の体調不良が発症しましたらご紹介お待ちしております。

また30年度よりは、より会員の先生方との連携を強化するため、外来における一般内科の比較的軽症な患者は積極的に先生方に紹介し、当院外来は、専門性、緊急性の高い症例、重症例にシフトすることを考えています。ますます紹介、逆紹介を増やし連携を深めて行きたいと思っていますのでご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが宜しくお願いします。

一般病棟におきましては、内科は、4月より消化器内科の常勤医が就任して以来消化管内視鏡、胆道内視鏡処置、ESD件数が増加していますがまだ余裕がありますのでご紹介お待ちしております。循環器科においては、ペースメーカー埋め込み症例26例で県内有数の件数を行っています。また4月よりは血液内科常勤医の就任も決まっています。

外科は、鏡視下手術が89件でますます増加傾向にあります。対象疾患は、がん（胃、大腸）、胆石、急性虫垂炎、単径ヘルニア、食道裂肛ヘルニアと多岐にわたり、幸い術後合併症もなく技術認定医2名を含め体制を整備しています。また地域として数少ない日本乳癌学会関連施設として乳癌手術も28件行っています。

整形外科の手術件数も307件と飛躍的に増加しました。鏡視下手術、手の外科認定施設、肩の専門外来等専門性の高い分野にも対応しています。

今年も上記の状況を継続し、先生方のお役に立つため努力する所存です。ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いします。



新年のごあいさつ



取手北相馬保健医療センター医師会病院

副病院長 渡邊 寛

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は多くの患者様のご紹介並びにご支援を頂き、無事に年を越すことができました。改めて厚くお礼申し上げます。昨年是不整脈関連や血管疾患の患者様が増加し、ペースメーカーや非解剖学的バイパス術などの血管手術が増加いたしました。臨床血管診療技師（CLINICAL VASCULAR TECHNOLOGIST CVT）も2名おり、学会活動もすることができました。医師の面では、工藤洋平医師の勤務時間が増加し一層手厚い陣容になりました。

今後は高齢の方の慢性心不全の激増が懸念されておりますので、こちらに対する対処システムを筑波大学の心不全グループと構築して参ります。具体的には医師の充足と看護師初めスタッフの教育です。昨年には、筑波大学附属病院循環器病棟に1年間派遣していた看護師が帰任し、看護主導の”患者さんケア”プロジェクトを始めました。まだ模索段階ですが近い将来に大きく花咲くと期待しています。他にも、看護部長の肝いりで、専門的な看護師養成に努めており、筑波大学などで厳しい修練中であり、こちらも大きく羽ばたいてくれると期待しております。

今年は、心臓超音波断層検査装置を最新型に更新しさらに診断能力向上に努めてまいります。高度先進治療が必要な場合に備え、渡邊は筑波大学附属病院臨床教授枠で大学でも外来をさせて頂くなど、先端医療施設との連携も深めて参りました。お役に立つことがあれば、かかりつけの先生と共に全力を尽くしてまいります。冬は循環器疾患が発症、増悪しやすい時期ですのでご多忙な会員の先生方もどうかご自愛頂き、健やかに過ごしてください。



筑波大学附属病院

取手地域臨床教育ステーションからのご挨拶

筑波大学附属病院
取手地域臨床教育ステーション
教授 福田 潔



新年あけましておめでとうございます。

筑波大学附属病院取手地域臨床教育ステーションが、当医師会病院内に設置され、約3年半がたちました。この3年間を振り返りますと、呼吸器疾患でも市中肺炎での入院が減り、いわゆる医療介護関連肺炎の入院が増えています。その為入院期間も長くなり、在宅復帰が困難な患者さんに遭遇しています。

昨年は、南4療養病棟休棟に伴い、南3地域包括ケア病棟開棟と言う改革があり、病院としても在宅復帰に力を入れている拠と思われる。「住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けたい」と言われる地域包括ケアシステムの構築は、当地域においても直近の問題となってきました。

在宅医（かかりつけ医）の先生を中心とした多職種連携ネットワークと、後方支援として医師会病院との良好な関係がきわめて大切になってきました。しかし、就任当初より感じている事の一つとして、外来での新患、予約外の患者さまの中には、医療機関のコンビニ受診の様な人が、言い換えればいわゆるかかりつけ医（主治医）が決まっていない人が結構いる印象があります。同様に退院後に患者さまを、どの先生にお返ししていいのか苦慮することもあります。在宅でのかかりつけ医、入院（病院）でのかかりつけ医を決めることが、地域包括ケアでの第一歩と考えています。

年頭の挨拶ではありますが、地域包括ケアの先には、在宅であれ、病院であれ、最後に死亡診断書を書く主治医が決まっていなくては、この制度は成り立たないと思います。大学から与えられた地域医療教育学のミッションの一つに、地域医療連携構築があると考えています。



お知らせ

生涯教育講演会・研究会（2月）

2月13日 (火) 19:00~	医療安全推進責任者研修会	「ハラスメントに関する話題」 筑波大学医学医療系 准教授：三木 明子	取手医師会病院
2月15日 (木) 18:30~	第227回取手・守谷・利根 地域在宅ケア事例検討会	①「家族で最期を迎えるために… ~病院・施設・ 在宅サービスとの連携~」 宗仁会病院 地域医療連携室 室長：飯田 拓也 宗仁会指定居宅介護支援事業所 ケアマネジャー：石塚 恵 ②「骨粗鬆症、認知症、廃用症候群 併存に対す るリハビリテーションアプローチ」 有田内科整形リハビリクリニック 院長：有田 元英	取手市医師会館 2階 講座室
2月27日 (火) 19:00~	取手市医師会学術講演会 ~感染対策研修会~	「クリニックにおける感染対策~CDCガイドラ インより~」 浜松医療センター 副院長・感染症内科長・衛生 管理室長：矢野 邦夫	取手医師会病院

交通アクセス



取手医師病院の理念 Heart (心・優しさ)
 H - 優しさに溢れた医療 (Hospitality)
 E - 迅速で効率的な医療 (Efficient)
 A - 向学心に満ちた医療 (Academic)
 R - 充実した地域医療 (Regional)
 T - 信頼感のある医療 (Trustful)

編集：医療連携室

TEL:0297-78-6183(直通)
 TEL:0297-78-6111(代表)
 FAX:0297-78-6184

